

平成 29 年度第 1 回大阪府立江之子島文化芸術創造センター指定管理者評価委員会 議事概要

日 時：平成 29 年 8 月 24 日（木）14：30～16:30

場 所：大阪府立江之子島文化芸術創造センター 2 階 多目的ルーム 8

出席者：出席委員 4 名（定員 5 名） ※五十音順
佐藤委員、坪池委員、服部委員、米山委員

【議事概要】

1 開会

2 議題

(1) 委員長の選任

⇒委員長は服部さんに決定

(2) 会議の公開について

(3) 評価方法等について

(4) センターの運営状況及び評価基準（案）について

3 閉会

◎主な意見等（○：委員、▽：指定管理者、●：事務局）

●事務局： 開設からの 5 年間に於いて、『現代美術の振興』、『交流・活動場所の提供』、『協働・活動機会の創出』に着実に取組み、一定の成果を得ると共に認知度も向上した。

事業計画書の運営方針にも記載しているが、これからの 5 年間は、“大阪の文化活動を総合的にサポートできる施設”を目指し、これまでの取組みを推進しつつ、文化関係の組織や施設とのネットワークの構築、文化情報の収集・提供等、新たな取組みを積極的に進めていく。

事業計画書に基づいて、評価基準にも目標数値を設定している。昨年度立てた目標値に対し、昨年度の実績が目標値を超えていた場合は、1 割増の数値を今年の目標値にしている。昨年度の目標値を達成できなかった場合は、実績の 1 割増と昨年度も目標値を比較し、数値が大きい方を目標値にしている。

先生方には、必ずしも数値だけで計ることのできない点をどのように評価したらよいかご指摘をいただき、この評価基準に反映していきたいと考えている。

本日欠席している小林委員からは事前にご指摘をいただいているので議論を始める前に伝えたい。

(○小林委員：①数だけで計ることのできない評価項目もあると思う。例えば、相談事業の場合、件数だけで計るのではなく、相談を受けた際に満足いく支援ができたのかを相手に伺い、その内容を今後活かすことができればいいのか。数量あるいは、抽

象的な評価基準だけでなく、内容に即して、具体的にどこを見てどう評価するのかを設定できればよい。

- ②府民全体に認知度をあげることも必要だが、文化芸術関係の人々に深く知ってもらうことも必要。取組みにはメリハリをつけるべき。広報については大学への個別営業や、特にファン層に向けた SNS の発信など、ターゲットを絞るのもよいかもしれない。そういった広報の取組みは急に成果が出るわけではないので、工夫をした取組みをしているのであればそれを評価する、という視点があればいいと考える。
- ③エノコの認知度向上に向けてだが、小学生の社会見学コースにエノコを導入してもらえれば子どもたちにも周知できるのではないか。隣接する津波高潮ステーションも一緒にコースにいれると防災的な視点で連携ができると考える。
- ④行政に対しての提言となるが、委託管理業務の中で努力することが収入増につながる仕組みがあることが望ましい。現状だと、例えば作品貸し出しをいくらがんばったところで、指定管理者がしんどくなるだけ。そうすると委託費の上限の中で可もなく不可もなく、といった取組みに陥りがち。お金儲けの視点ばかりではもちろんダメだが、モチベーションが高まる指定管理のあり方を考えてもらいたい。

○坪池委員：エノコの単年度だけを見て評価はするのは意味がないと考える。5年後のビジョン、到達目標といった中期計画を別途作成した上で、単年度の評価をしていくべき。5年間の計画の上での1年目、2年目、3年目という見方が大事だと考える。

○服部委員長：現在、各文化施設は個性化が重要な状況であり、その点については数値のみで評価できないと考える。今は、地方で起こる地域活動や自治体施設で起こる地域連携の動きが個性的にも活発にも見える。アートや教育などを用い、活動は盛んに行われているが大阪では、そういう取組みが際立ちにくく難しい印象がある。

地域に必要な個性化をどのように目指すべきか、コンセプトに関する議論を深めるべき。

また、enoco で取り組んでいる地域の課題解決事業はプロセス型のため、なかなか見えにくいですが、重要な取組みなので、できるだけ評価していきたいと考える。

○米山委員：個性化の手法として、enoco クラブはそのひとつと思う。進捗は？

▽指定管理者：プラットフォーム形成支援事業のノウハウを館の運営にも活かし、enoco の

ファンを増やす計画である。アート&ライフスタイル活動や日生病院、木津川のトコトコダンダン等のキーマンを発足メンバーとして、計画を練っている。活動費を捻出する必要があるため、有料のファンクラブ等も作る（オフィスのブース貸し等）。今までのステークホルダーはテーマ型が中心であり、enoco クラブのメンバーは地縁型が中心になると考えており、enoco のファンの幅を広げていきたい。

○服部委員長：enoco クラブは、ネットワーク、教育、プラットフォーム事業という enoco の活動軸を一気通貫する機能として重要だと考える。例えば、「まちライブラリー」事業では、本を持ち込んだ市民が先生になって活動するなど、教育のプラットフォームにもなっている。プラットフォーム化することを前提に、enoco クラブがどのようなプラットフォームで動いているのか、可視化し、情報発信できればいいと考える。

○佐藤委員：今のスタッフの人数で、これだけの数値目標を達成するのは難しいと思う。目標の中でも、特にこれを達成したい、という点はあるか？

▽指定管理者：ネットワークが重要だと考えている。過去 5 年間、ネットワーク作りに取り組んできたが、すべてがうまくリンクされているとは言えない。新しいことが多発的に生まれる状況を作りたい。アーツカウンシルの佐藤氏と甲賀館長とで、それぞれのネットワークの棚卸し作業を始めている。それらをベースに今後 5 年間でモデルをつくっていきたい。

○坪池委員：府立という広域圏の施設であることと、地域の施設であることという 2 つの特性を持っている施設として、まちづくりにどういう貢献ができるのか、今までのまちづくりとは全然違う取組みを 2 つの特性を持った施設として考えていくべき。

評価の視点ということからすると、利用率のアップを単純に目指しても、小さな施設のため、使えない人が増えるとクレームが増すだけ。作品貸し出しも、点数よりも、貸し出し先の内容等で見ると、ポイントを整理して、戦略的に考えてはどうか。

文化がまちづくりに関わる時の実験場として、enoco が地域に対して、新しい視点を提供するなど、他の地域へのモデルとなるような取組みができるといい。

また、エノコの認知度向上に向けてだが、『目的利用』と『状況利用』を分けて考えたらよいと思う。目的利用というのは、例えば、美術作品を収蔵・展示することなど、専門施設としての目的利用。状況利用というのは、例えば、施設の敷地やロビーなどをうまく活用してフリーマーケットを行うとか、まちライブラリーを開くとか、公共スペースとして新たな市民の居場所になるような、市民との交流が図れるような取組みを行うということ。この 2 つを分けて考え

るとすっきりする。状況利用が図れれば、逆に本来の目的に則った専門施設としての役割を従前に果たせるようになる。

enoco も、近隣住民の居場所としての視点を組み入れて、事業を戦略的に構築する必要がある。

評価基準からの答え合わせだけでは何も生まれない。5年後のイメージを持ちながら様々な発展する可能性のある基盤をつくることが重要である。

○服部委員長：専門性の高い目的利用を高めると運営費がかさむが、市民と共に創る状況利用を促進する企画はアクセスポイントを増やすということなのでそこまで経費をかけずにできそうである。5年後にどうありたいかの戦略を立てた上で、状況利用の方法論を組み立て、目的利用のプログラムもつくってあげばいいのではないか。

○米山委員：事業やイベントを企画する際、例えば、エノコ近辺のマンションの世帯構成等を動的に把握できれば、よりターゲットを絞った取組みができると考える。

○坪池委員：各目標数値についてだが、達成できなくてもそれでもいいと思っている。ただ、なぜ達成できなかったのか、そもそも達成可能なことなのかということを確認する必要はある。また、達成できた場合も何がよくて達成できたのか分析を行い、翌年度に繋げることが重要である。

○米山委員：各項目に掲げてある数値目標だけで評価できないと思う一方で、やはり目標値を掲げることは目に見えるし、必要であるとも思う。今年の実績についてどういったアプローチ、プロセスによって表れた数字なのかを教えてください。

○服部委員長：自主事業で行っている府の委託事業『プラットフォーム形成支援事業』だが、もっと発信すべきだと思う。事業の動きを可視化して表現できないか。健康、暮らし、大学、等といったテーマについて、enoco の〇〇や△△を活用した〇〇というプラットフォームを作ったから成功した、というような事例紹介をする。単なるアドバイザーとして助言した、ということで終わらせずに、どうやったからうまくいった、という自己評価をすることがとても重要である。

▽指定管理者：事業はすごく評価いただいているが、伝え方が上手にできていない。ご指摘のとおり、打ち出し方を考えていかなければと考えている。

○服部委員長：粒ぞろいのメンバーがそろっているので、そのメンバーを組み合わせれば、いろいろなメニュー構成が提案できるはず。それを表現できれば、enoco 自

体の個性もはっきりすると思う。

○服部委員長：広報計画について、苦戦しているとか、悩んでいることはあるか？

▽指定管理者：数値目標をどう設定すべきか、暗中模索している。

○服部委員長：評価基準の『広報計画』についてだが、今は SNS の時代なので、それらの活用も考慮していくべきだと考える。

○服部委員長：美術作品も enoco にとって、ひとつのコンテンツだと思うが、本当に 5 年後にいいコンテンツになっているか、評価が必要。コンテンツ自体も熟成させ活用する必要があるからである。数字だけの評価では、計れない部分もあるが、戦略的に進められていることも考慮に入れて評価することが必要である。

▽指定管理者：コレクション・キャラバンという形で、学校に出向いて、子どもたちと一緒に展示しながら鑑賞する機会を提供している。その作品 1 点と、企業に貸し出した 1 点とは中身が違う。今はどちらでも評価が同じなので、その違いをもっと評価していただきたい。

○服部委員長：評価基準の変更や追加があってもいいと思うが、どうか。

●事務局：評価項目は決まっているが、評価の内容や方向は委員の先生方のご意見をいただいて、対応できる。

○服部委員長：『広報計画』については SNS の活用についても評価するということを追記したい。

○坪池委員：5 年間の総合的なロードマップがない状態で、単年度の評価をすることに意味を感じない。ロードマップがあれば、数値的に達成していなくても問題ない、という評価ができる。あるいは数字だけ達成していてもダメということもありえるので、次回からは、5 年間のロードマップと照らし合わせながら議論したい。

●事務局：単年度の評価とは別に、enoco に 5 年間のロードマップを作成してもらい、任意の形にはなるが、今後はそれも合わせて評価の議論を行えるよう調整したい。

○服部委員長：次回は、今年度の評価とともに、5 年間のプランについても意見交換できればと考えている。